



アフリカで11年、 共に歩んできたアロイジアスのこと

昨年7月、「センター建設ご協力お願いキャンペーン」のための日本帰国直前、ある方からメールが入りました。私の出身地徳島県が取り組む「平成16年度徳島県国際協力県民パートナーシップ事業」に、モヨが推薦したい現地の人間はいないかという内容でした。それも至急返事が欲しいとのこと。急な申し出に戸惑いながらも直ぐ頭に浮かんだのがウガンダで貧しい子ども・若者たちの為の職業訓練校の代表をしている Kirangwa Aloysius (キラングワ・アロイジアス) の名前でした。彼は、私がアフリカに住むようになって間もなく知り合い、10年余り共に歩んできた若者です。

私は1994年7月に始めてウガンダの地を踏んだのですが、確かその翌年、当時お世話になっていたNGOにスタッフの一人として雇われたのが彼でした。その後そのNGOの閉鎖、私のケニアへの移住、彼の大学への復帰等々色々な事件がありましたが、お互いに連絡を取り合いながら、ウガンダで関わった子どもたちの自立に向けて共に働いてきました。私は1999年にケニアで「モヨ・チルドレン・センター」を設立、後を追うように彼もウガンダのルカヤという地で「HDCC」という貧しい子どもたちや若者たちのための支援組織を立ち上げました。私もその設立に名を連

ね、モヨとしても支援し続けてきました。

私が日本からのメールを受けて頭に浮かんだのがまず彼の名前でしたが、同時に思ったのは、研修先としてNPO法人「太陽と緑の会」に彼を受け入れて頂けないだろうかということでした。というのも私がアフリカに来るきっかけを頂いたのが「太陽と緑の会」でしたが、それ以来前代表・近藤先生、現代表・杉浦さん、スタッフ、メンバーの方々には日本帰国の度に、又、通信「かわら版」を通じて、色々教わりながら、励まされながらアフリカでの活動を支えて頂いていたし、その哲学と運営の仕方について心から尊敬していたからです。

日常活動にお忙しい中受け入れて頂き、色々な方々に支えられながらそこを中心とした日本での6ヶ月間の研修を無事終えて彼は先日3月28日ウガンダに帰国、その足でケニアにも報告にきてくれました。ひとまわり大きく逞しくなったように感じられる彼と話しながら、「手伝えることがあったらいつでも言って下さい。出来るだけのことをしますから」と言ってくれる彼の言葉を聞きながら、改めてアフリカでの11年近い日々を思いを馳せたものです。

最後になりましたが、皆様の暖かいご支援のおかげでアロイジアスは無事研修を終えることができました。



事業を主催してくださった「徳島県」、受入れてくださった「徳島県青年海外協力協会」、研修させていただいた「太陽と緑の会」、また彼を支えてくださった多くの方々々に推薦者として心よりお礼申し上げます。この研修で学んだ多くのことをアフリカの地で活かしてくれることと信じています。今後お互いに支え合いながら共に歩んでいければと願っています。本当にありがとうございました。モヨ・チルドレン・センター主宰 松下照美

特定非営利活動法人・太陽と緑の会

太陽と緑の会は、人も物も活かされる社会の実現を図るため、リサイクル活動、障害者の自立支援、ボランティア育成、及び国内外の各分野で活動する個人・団体との連携・協力などに関する事業を有機的に行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする「特定非営利活動法人」です。

リサイクル文化社会を創りつつ、そこが障害を持つ人々の働く生きがいの場となり、そこに关わる一般市民がボランティア精神を学び、同時に国内外の個人・団体を支援する、という有機的な活動を目指しています。－「かわら版」より

私の日本での研修

私が日本で受けた6ヶ月の研修はとても素晴らしい機会でした。私は主に組織の企画と運営、それにリサイクルシステムについて学びました。これらの学習からはもちろん、日本の社会・経済・政治環境全般からも私の人生を大きく変えるほど強い印象を受けました。



トレーニングの目的は組織を企画、運営する上で必要なより新しく、しかも実現可能でなおかつ持続できる方法を考えるセンスを身につけることによって私をよいリーダーに育てることでした。

その主な内容はタイム・マネージメント、記録の仕方を含む基本的な事務仕事、有効的な管理と組織化、ボランティア活動の組織化、効果的なコミュニケーションの方法、企画の案作り等々。加えて日本語を習いました。そして日本で学んだ方法をすでに活用しています。

この研修事業を提供してくださった「徳島県」、受け入れてくださった「TOCA」、素晴らしい研修の場であった「太陽と緑の会」、推薦してくださった「MCC」、私の留守中、私に替わって激務を果たしてくれた HDCC ウガンダのボード・メンバー達に感謝します。(松下・加藤訳)

キラングワ・アロイ・ディセント・イブラハム

様々なことが凝縮された半年間でした。ー日本で受け入れてー

昨年「阿波踊り」の頃、「ウガンダ青年（建築技術者）が研修に来るのでお世話をお願いしたい。」と依頼を受けました。県の「国際協力県民パートナーシップ事業」で来日し、PO 法人で研修を受けるとのこと。建築隊員として同じアフリカのジンバブエで2年間過ごしたこともあり、また前の勤務先が ODA でウガンダの設計監理を担当したこともあってご縁を感じて引き受けました。アロイさん滞在中は、青木さん（大家さん）、日常生活でお世話になったうえ「盆栽」まで教えてくださった久保田さんを始め多くの徳島県民の皆様によくしていただきました。「太陽と緑の会」の皆様、一週間研修させていただいた

た「なかまたち」の皆様、ご招待いただいた神戸の大垣さん、松山の臼井さんと過ごした時間は、アロイさんにとって極上の思い出になりました。皆様本当にありがとうございました。

今、振り返って見れば、お世話をしたというよりも、アロイさんと共に様々なことが凝縮された半年間を過ごすことができました。アロイさんには、推薦していただいた松下さん、そして皆様のご好意を心に刻んで、ウガンダの若者たちのために活躍していただきたいと願っています。

徳島県青年海外協力協会
（青年海外協力隊 OV の会）一同
& 松村幸江

ストリートの子どもたちへの支援活動

ケニアの小学校が一斉にイースター休暇に入る直前の3月下旬、スタッフとボランティアの人たちと相談して月、水、金曜日のスタジアムでの活動を月曜日～金曜日まで毎日行うことにしました。期間は3月24日～5月2日、時間は同じく朝9時から12時30分まで。毎日曜日午後2時からのサッカーの対外試合を入れると土曜日を除き毎日活動するということになり、総動員で時間割を組みました。朝9時～11時まで15分の休憩を挟み英語、算数、スワヒリ語の勉強その後サッカーの練習をし、マーガリンつき食パン半斤づつ、ジュース、果物（金曜のみ）等支給という時間割です。毎日20人前後の子どもたちが参加しました。

なぜ、これを考えたかという、昨年以來モヨの活動を通じてストリートから学校に復帰した13人の子どもたちが、長期休暇中にまた路上に戻り、やっと止めたシンナーに手を出すのを恐れたからです。この子どもたちと毎日会うことによってそれを防ぎ、まだ学校に



復帰できていない子も一緒にやることによって改めて学校復帰を考えるきっかけになるかも知れないという期待もありました。

5月3日、新学期が始まったその週は学校に帰る子もいましたが、現在は全て復帰しました。ボランティアの人たちの協力を得て、それなりの効果はあったと言えると思います。

松下

ワークショップ訪問記 ～自立を目指して～

■マラグア編

ティカから約30分にあるマラグアという町で、バナナファイバーを素材にした雑貨を作っているグループを尋ねました。

これは、MOYOが障害者グループを組織して、雑貨を作成したり、裁縫などにより各々の経済的自立を図ろうという試みを進めるためです。残念ながら、実際にバナナファイバーを素材にした雑貨を作っているマイナさんは、行けませんでした。裁縫を手がけているエディスさん、靴の修理を生業としているピーターさんが参加しました。この2人は足に障害がある方たちで、MOYOが何名か学費をサポートしている「ジョイタウン小学校」を卒業した人達です。そして、婦人グループのプリシラさんも参加しました。

この訪問先は、JICA協力隊員の清水武彦さんが支援しているグループの1つです。グループのチェアマンであるジョセフ氏は、作っている作品を見せてくれた後、実際にバナナファイバーを使ってどのように作っていくのか、製造過程をこと細かに説明してくれました。プリシラさんは、主だった作品を参考にするために買い求め、エディスさんは、熱心にメモをノートに控えていました。

同じ物を真似するのではなく、新しいアイデアの元に

MOYOのオリジナル作品を作り出そうと、皆の意見は一致しました。さて、この訪問をきっかけにどのような展開が繰り広げられるのか楽しみです。マーケットのターゲットをどこにするかなど、まだまだ課題はありますが、いつか日本に皆様にもお披露目できる日が来たらと、希望に胸がふくらむ訪問でした。取材 高橋

■ナイロビ市内編

5月5日、婦人グループのプリシラさん、ハンディキャップグループのマイナさん、エディスさんに同行し、ナイロビ市内にある工芸品店2ヶ所とダゴレットティーチルドレンセンターに見学に行きました。前日同様、デザインやスキルの勉強のためです。（自分達で作った手工芸品を販売することを只今計画中。）

前半に訪れた2ヶ所の工芸品店はさすがにデザイン、スキルともに高品質なものでかれらも多くの刺激を受けたようで、材料は何か？何処から手に入れたのかなど熱心に調べていました。午後はチルドレンセンターでハンディキャップを持った人々が作成しているビーズ細工などの現場を見学しました。

見学が終わり、帰宅途中の車の中で彼らは二日間を通して多くのことを学べ、大変ためになったと話してくれ、プリシラさんが「テルミがこういう機会をくれたから、あとは私たちが頑張る番ね！」という力強い感想を述べてくれました。

取材 藤田

真剣さと緊張の時。 新しく支援を始めた子ども達

						
Patrick Kibira パトリック・キビラ (20 歳) ITURU HIGH SCHOOL 3 年生	Bonface Otieno ボンフェイス・オティエノ (20 歳) UNIVERSALCENTRAL ACADEMY 1 年生	Muveta Josephat ムベタ・ジョセファット (19 歳) ALLIANCE HIGH SCHOOL 1 年生	Francis Mutua フランシス・ムテア (17 歳) THIKA HIGH SCHOOL 1 年生	Moses Odur モーゼス・オデュア (16 歳) KIMUCHU SECON-DARY SCHOOL 1 年生	Peter Mwangi ピーター・ムワンギ (18 歳) THIKA YMCA COLLEGE 1 年生	Fenton Ochieng フェントン・オチエング (16 歳) THIKA HIGH SCHOOL 1 年生

5月2日、第2学期の学費の支給を受け、新しく支援を始めた子ども達が、ティカスタジアムの事務室に集まりました。個人データの記入用紙と学費を渡された子ども達にインタビューをしたのですが、緊張しすぎていて、データに書いてある以外の答えは全く返ってきませんでした。下手なことを答えて支援を打

ち切られてはと思うのでしょうか。それは、いかに学費の支援先を探し出すのが大変で、この支援を絶対に逃してはならないという真剣さの表れかと、改めてケニアの厳しい状況に心を痛めたひと時でした。幸運にも支援を獲得した子ども達、他の大勢の子ども達のみで勉学に励んでね！

今年は2人が卒業し、2人の新高校生、2人の職業訓練校生を加え、全体で32人になりました。

取材 高橋

ケニア・ア・ラ・カルト⑥ 守れぬ約束

今日は今日～♪ 明日は明日～♪ とケニア人の友達が歌っています。明後日は？とチャチをいれると、そんな先の事は判らないと答えが返ってきます。ふ～ん、だから2日先以降の約束は守れないのねと変に納得。守れないのだったら約束なんてしなければ良いのに、そこは気の良いケニア人のことOK～と気軽に返事が返ってきます。それを当てにして待てど暮らせど本人から連絡なし。しびれを切らして、「どうしたの？」と電話すると、「今行くよ～」との返事。やっぱり忘れてたのね！（高

編集後記

◎ 1996年ウガンダからケニアに移って以来、公私共にお世話になっていた加藤さんご一家がこの3月日本に帰国され、本当に淋しくなりました。ナイロビがちょっと遠くなったように感じます。ただ英子さんが引き続き通信のお手伝いをしてくださることでホッとしています。今後共宜しく願います。(テル)

◎ 雨季を迎え、毎日激しい雨が降っています。乾季の水不足を考えると雨は大歓迎なのですが、スラムの冠水は半端ではないので、人々への被害が少ないことを祈ります。(優香)

◎ 10年の滞在中を経てやっとというのか、とうとうというのか、帰って参りました。ナイロビに住んでいる時は、アフリカってなんて自然が近いんだらうと思いましたが、どっこい、日本でも圧倒的な自然の力がありました。だからこそこのささやかな人為の中で鋭意努力せねば。引き続きよろしく願います。(英)

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集
 お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸いです。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000 円	20,000 円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000 円	3,000 円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

経過報告 (2005年5月18日現在)
 正会員：日本 38名・ケニア 1名 計 39名 (3名増)
 賛助会員：日本 28名 (1名増)
 特別会員：日本・個人 36名 (3名増)・法人 3社

「支える会」よりお願い
 2005年の会費納入をお願いします。
 事務所新住所 〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林 1785-1
 新電話番号：0896-74-7920

モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月 ■ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。

1999年9月 ■ケニア政府より国際 NGO として「モヨ・ホーム」正式に認可・登録される。

2000年10月 ■ティカにて、本格的に活動開始。

2001年5月 ■「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。

2004年4月 ■「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

モヨ・チルドレン・センター ●ケニア政府 NGO 局登録番号：OP.218/051/97223/1006
 P.O.BOX 2712 THIKA KENYA TEL/FAX：254(ケニアの国際番号)-067-22329 E-MAIL：moyo@africaonline.co.ke

日本連絡先
 ■モヨ・チルドレン・センター日本支部 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1905 青木康子：TEL/FAX：044-433-3447
 ■モヨ・チルドレン・センターを支える会 〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林 1785-1 高塚政生方：
 TEL/FAX：0896-74-7920 携帯電話：090-11715632 E-MAIL / tmasao@d1.dion.ne.jp

■「支える会」会費 / 寄付受付先※口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会 代表者：高塚政生 ※郵便振替口座番号：01660-1-73996